

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2774001149		
法人名	(有) エイトサービス		
事業所名	グループホーム 豊中オアシス (2階)		
所在地	豊中市南桜塚4丁目11-3		
自己評価作成日	平成 24年 5月1日	評価結果市町村受理日	平成24年7月3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症発症に於いてもパーソンセンタードケアを最大限に取り入れながら残る人生、その人らしく地域、家族様と交流を持ちながら、生活の場として1人1人へのきめ細やかなサービスを心掛け、理念を中心に居心地の良い施設である様心掛けている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 親和ビル4階		
訪問調査日	平成24年5月23日		

利用者の個性や身体状況が18人夫々に違いがある中で、限りある職員のそれぞれの力をよりよく活かして、ホームが目指す介護の質の向上に向けて努力している。新入職員を迎え、経験者も含めて観察と気づきを起点にした1日の振り返り記録をつけることで、利用者の思いと介護のずれを認識し反省して自分たちの介護力を高め、利用者の笑顔・安心と信頼に応えたいと努力している。木造の職員寮を改装したという居住性の不便さを超えて、利用者の寂しさ・不安を笑顔と優しさで受け止め、ひとり一人が心豊かに過ごせる本当の居場所をつくり、生きることの値打ちを輝かせたいと、日々の暮らしの充実にさまざまな工夫と努力を重ねている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊厳、人権を守り、その人がその人らしく、安心、安全、快適にやさしい、いたわりの心を持って介護、地域との交流による生活の場を心掛け実践している。	地域との関り、支え合いが利用者の生活支援に欠かせないことを理解し、日々の実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の春、秋の祭り、盆踊り大会、老人会への参加、買い物、散歩、喫茶店でのくつろぎ、等交流活発に行っています。	地区の福祉会主催の各行事に参加、ホーム主催の夏祭り・クリスマスの集いに近隣を誘うなど、開所して10年余のお付き合いが普段の姿で継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事として夏祭り(お盆)を近隣の方々にも開放しながら交流を心掛けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回開催し意見交換、アドバイスなど受け、取り入れて実践している。	開催期・会議内容・構成員ともに順当である。今後、住民代表や民生委員を介して地域からの参加者を募り、会議内容の工夫などで会議の充実、活性化を図りたいとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議を通し市担当者出席のもと、報告、相談など常に取り組んでいる。	業務上の連絡・連携を基に、利用者の処遇についての相談等、協力関係は良好である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必要が生じた時点で家族、医師相談、説明のもと短時間のみの場合もあるが、ほとんど無い状況のもと介護に取り組んでいる。	心・身体ともに拘束について理解し、常に意識しながら諸事に対応している。門扉、2階出入り口は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に常に指導を行い当施設に於いては一切、一度も無い。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は未研修であるが管理者は研修にて理解、把握している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず執り行い入居者(家族)全員が持つておられる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加、介護相談員の来所などの意見交換を取り入れ反映させている。利用者、家族の意見、要望を聞く事を常に心掛けている。	家族会はないが、面会時や行事参加時を活かして意見・要望を聴きとるよう努めている。利用者の暮らしぶりを「豊中オアシス便り」として月末請求時に同封することを計画したが、昨年度は2回に止まっている。	利用者の近況が定期的に届けられることは、家族にとって大きな安心と信頼に繋がるであろう。あと一歩の努力に期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や全体ミーティングなどで意見や提案、状況報告などの機会ある。	月1回の職員会議、年2～3回の全体会議、不定期にある上層部役員との懇談会など、意見・要望を聞く機会を設け、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、職員からの意見、要望を聞き取り組む姿勢みられる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回の職員会議、定期的に研修、勉強会、後援会参加など意見交換など実施。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との勉強会、事業所連絡会などに参加、意見取り入れサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設での生活としてパーソンセンタードケアによるサービスを第1に不安を取り除く事と御本人に必要なサービスの確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の希望する介護、施設での生活の要望に添える様受け止めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学をして頂き必ず三者面談を行い不安、困り事、希望など聞き、取り組んでいる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	寄り添う介護、制止しない介護を心掛け本人の出来ることは協働しながら人生の伴走者として支援おこなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にとりあい、外出、外食されたり家族様の協力のもと、楽しい時間が持てる様にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問、電話、外出など制限なく自由に取り入れ今迄の生活を出来るだけ継続出来る様支援している。	多くの利用者は重度化するにつれ、馴染みへの拘りは失われつつある。個々人の生活歴を把握しての、ホームの日常生活から生じる新たな馴染みを大事にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知の度合がさまざまでも難しいがスタッフの間に入ったりしながら利用者同志の親交に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	自立支援に改善された方への訪問や問い合わせなど時々している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や不満に耳を傾け出来る限り意向に添う様努め、笑顔になる行動や表情を観察し、ケアプラン作成のもと支援する。	したいこと、したくないこと、出来ること、出来ないことのひとり一人の違いを見落とさず、思い込みの支援をしないことに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のアセスメントを参考にしながら家族、友人に生活歴や人となりなど聞かせてもらって情報の収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	体調、心理の状態、状況に合わせその人に合った一日をその都度把握しながらの支援。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ間の情報の共有、報告を密にし、変更必要時サービス担当者会議を開き家族様にも参加して頂き本人に添った介護計画を作成している。	職員各人が記す1日の振り返りノートを基に、利用者の状態・状況についての把握を密にした話し合いで、見直しも含めた介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録への記載、申し送り、ミーティングを常時行い月1回の職員会議で情報の共有、改善に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	パーソンセンタードケアを中心に画一的サービスでなくニーズに合ったサービスを取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域福祉会の集まりへの参加で心から楽しんでおられる姿など大切にし、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の往診による受診と家族様協力のもと定期受診や専門受診を取り入れている。	ひとり一人の状態を把握し、協力医と情報を共有しながら健康管理に努めている。通院は家族介助を基本としているが、必要に応じて管理者が同伴し受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	2週毎に体調、状態の変化など1人1人の状態を報告、指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーの提供、病室への訪問による状態の把握、退院時には診療情報提供書、看護サマリーのもとカンファレンス行って取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人家族との話し合いを必ず行っています。施設での対処には限界のある事も説明し、了解を得て支援行っている。	重度化対応、緊急時対応についての同意書がある。医療処置ができず看取りが出来ないことことを前提とした終末期対応の指針書を作成し、話し合いによる同意を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署における救急、救命訓練、後援会に職員全員参加している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、避難など防災訓練は定期的に行っている。	日中に利用者を外に誘導することに慣れる方法を模索したいとしている。夜間の避難訓練と、備蓄品については今後の課題とする。	木造2階建てという条件のもと、訓練の繰り返しと夜間想定の実務訓練、また高齢者特有の備蓄品について、検討と実施が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳にもつながる言葉使いには厳しく全職員に指導行っている。	親しさや馴れに溺れない言葉かけや態度で、説明・納得・行動を基本として、利用者ひとり一人に向き合うよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ゆっくりと要求を聞くゆとりを持つ様心掛け 本人の決定のもと取り組んでいる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、状態など心身の状態を考え 傾聴などしながら無理のない様に対応、支援行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理、美容を定期的に取り入れ身づくろいや 季節感のあるおしゃれの支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の旬の料理を利用者と共につくり、それを職員も一緒に食し、準備も片付けも協働しながらの支援をしている。 外での食事会も取り入れている。	ご飯と汁もの以外は、隔日配送のケータリングを利用している。旬のものを手作りで加えて、美味しいを楽しむ工夫もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量、食事の形体、水分量など1人1人体調に合わせて対応を行い支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の入れ歯洗浄、消毒、イソジンうがいにて口腔ケア実施、おがいがい困難な方へは口腔内清拭の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立の方以外の方は日中は必ずトイレ誘導シ、オムツの必要な方は夜間のみオムツ対応にして日中はリハビリパンツ使用にとどめ、支援している。	各人の状態に合わせて、排泄介助が適切に行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便ピ薬の服用は極力おさえ飲み物、食べ物腹部マッサージなどの支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人の意思を尊重し強制はしないがタイミングや言葉かけによる誘導を心掛けている。	1階と2階の曜日をずらした形で週2回、午後入浴を支援している。日常の入浴剤のほか菖蒲湯やゆず湯を楽しむ機会もある。女性の利用者には同性介助を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠状態を把握し、午睡の時間を調整したり居室でのおしゃべりなどおだやかな気分で入居や休息を持ってもらえる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬処方箋の把握、症状の変化の把握、医師への報告、相談、指示など支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る方には曜日を決めてお手伝いなど達成感を持ってもらい、レクリエーションなども一人一人に合ったものを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節感を味わえる散歩、春、秋の遠足(バス)紅葉観賞など本人の行きたい所への外出介助などの支援を行う。	身体状況、天候、人員配置の都合により日常的な外出は十分でないが、季節や本人希望に沿った外出に出来るだけ応えたいと努力している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物で自分の買った品物のレジでの支払などの支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙は出せる方がおられないので電話は希望すれば必ず支援行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分の整備、作った作品の展示など明るく楽しい施設づくりに努めている。	1・2階とも十分に広いとは言えないリビングだが、10余年の歳月が醸し出す居心地の良さが伝わってくる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や廊下の長椅子やソファーに座っておしゃべりなど常にされている。お互いの部屋を訪問されたり自室で編み物をされたり自由に過ごされています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各個室にて重い思いのお部屋づくりをされています。使い慣れたタンス、仏壇、家族写真、ヌイグルミ、テレビ、いす、こたつなどがあります。	寮を改装した個室で床が畳・フローリングの差はあるが、夫々に暮らしぶりが窺える落ち着いた雰囲気のある居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	目印の表札(全員)トイレや廊下の手すり、浴室の目印など生活しやすい様工夫取り入れて支援している。		